

## ガーナ共和国の首都アクラで「日本留学フェア」を開催

本学アフリカルサカオフィスは、11月9日（土）にガーナ共和国の首都アクラにおいて、在ガーナ日本国大使館との共催で「日本留学フェア」を開催しました。本フェアは、サブサハラ・アフリカ地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に、本学が文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として実施したものです。ガーナでの開催は2017年2月に続き2回目となります。

1957年にサブサハラ・アフリカで最初に独立を達成したガーナは、他のアフリカ諸国と比較すると、歴史的に留学を通して発展した国といえます。金やカカオの輸出が好調であったため、英領植民地の中でも裕福な部類に属し、独立以前から欧米の大学へ留学し学位を取得するガーナ人が相当数いたといわれています。初代大統領クワメ・エンクルマを含む当時のガーナ独立運動の活動家たちは、欧米へ留学した者たちであり、帰国留学生が国の成り立ちに密接に関わりました。

現在においても、欧米に多くのガーナ人が留学するなか、日本への留学熱は高いものの、日本への国別留学生数は100名程度に留まっています。そのため、本フェアを通じ、より多くの優秀なガーナ人学生の日本留学実現に向けて、日本とガーナの大学間交流を深めることが必要となります。

本フェアでは、日本留学に関する情報提供と相談受付をおこなう「留学フェア」とサイドイベントとして日本とガーナの大学および研究者間の関係を活性化する「学術交流ワークショップ」が開催されました。参加機関とし

て、本学のほか、京都精華大学、筑波大学、東京医科歯科大学、長崎大学、山梨大学、山梨学院大学の7大学、そして在ガーナ日本国大使館、JICAガーナ事務所が出席しました。本学からはアフリカルサカオフィス所長の奥村正裕獣医学研究院教授、高井哲彦経済学研究院准教授、大竹 翼工学研究院准教授、留学コーディネーターの日下部光特任准教授、大門 碧特任助教と山本ひとみ特定専門職員、国際部の村瀬達哉国際協力マネージャーと安高由香利特定専門職員が参加し、日本の関係諸機関からの出席者は22名でした。留学フェアおよび学術交流ワークショップの両イベントとも、ガーナ大学に隣接するエラタホテルを会場に開催しました。

学術交流ワークショップでは、ガーナ全土から37名の大学教職員が集い、日本人と合わせて計56名が参加しました。姫野 勉駐ガーナ日本国特命全権大使による開会挨拶の後、ガーナ大学の副学長エベネザ・オドゥロ・オウス教授（日本で学位取得）の挨拶と、奥村アフリカルサカオフィス所長による本事業の説明がありました（写真1）。その後、日本学術振興会（JSPS）ナイロビ研究連絡センターおよびJICAガーナ事務所が、各機関の研究助成制度について紹介しました。さらに、本学の高井准教授（写真2）をはじめガーナ大学の教員が研究発表を行いました。ガーナ大学の教員7名（全員が日本で学位取得）の各発表は、日本の研究機関との共同研究、また「トヨタ自動車」や「味の素」といった日系企業との産学連携による研究など多岐に

わたり、ガーナと日本間で多様な研究協力が進んでいることが明らかになりました。

留学フェアは、計242名の参加がありました（写真3）。留学希望者の内訳は学部生が多く、高校生16名、学部生154名、修士課程学生21名、博士課程学生1名、その他は社会人等でした。本フェアでは、セミナーと日本からの参加大学の紹介や個別相談を行うブース会場を別にし、さらに参加者を2グループに分け、参加者が効率的に情報収集できるようにしました。

セミナーでは、日本留学と国費奨学金プログラムの概要説明、ガーナ人元留学生による日本留学体験談、ガーナでの日本語教育の活動紹介に加え、高知大学からガーナ大学へ留学中の吉村湧喜氏が日本の大学の学生生活を話しました。一方、ブース会場では、本学含む日本の参加大学から研究教育の特色と留学プログラムが紹介され（写真4）、それに加えて資料参加23大学\*のパンフレットの配布とともに留学コーディネーターによる留学全般に関する相談対応（写真5）、ガーナ人元留学生による個別相談のブースを設置し、参加者のニーズに沿ったフェアの運営に努めました。



写真2：学術ワークショップで発表を行う高井准教授



写真3：留学フェアの参加者とセミナー会場



写真1：奥村アフリカルサカオフィス所長による本事業の説明



写真4：ブースで本学紹介および留学相談に応じる大竹准教授と高井准教授

本フェアへの参加に際し、オンラインの事前登録と同時に、アンケートへの回答を参加条件にしました。それにより、参加者の属性とニーズを事前に把握でき、フェア終了後もメール等で追加情報の配信が可能となりました。

アンケート結果によると、本フェアに関する情報の入手先の約7割がFacebookやWhatsApp等のSNSによる友人間の情報共有に基づくものでした。また広報開始後1週間以内に、事前登録数がフェア参加予定定員の250名に達しました。スマートフォンの普及とともに、アフリカにおける効果的な広報ツールとして、SNSやWebサイト活用の重要性を改めて認識しまし

た。本学アフリカルサカオフィスは、ニーズに沿った質の高いサービスを提供し、日本留学を通して日本とアフリカの架け橋となる人材を発掘するように努めていきます。

\*岡山大学、お茶の水女子大学、金沢大学、北見工業大学、九州大学、九州工業大学、京都大学、工学院大学、神戸情報大学院大学、国際大学、東京工業大学、東京国際大学、鳥取大学、富山大学、名古屋大学、名古屋工業大学、兵庫県立大学、広島大学、宮崎大学、山形大学、横浜国立大学、立命館大学、早稲田大学（以上、計23大学）

（国際部国際連携課）



写真5：留学全般への相談に対応する山本ひとみ留学コーディネーター